

平成25年台風18号桂川洪水特性と日吉ダムの効果

京都大学防災研究所・水資源環境研究センター



- 台風18号により、桂川上流の日吉ダムでは総雨量345mm、ダムへの最大流入量1,690m³/s(日吉ダム管理開始(平成10年)以降最大)を記録((参考)平成16年台風23号時の最大流入量856m³/s)
- 日吉ダムは、下流の亀岡、嵐山、桂川下流の洪水流量を軽減すべく、ダムの洪水調節容量をフル活用して流入水をカット(最大流入量1,690m³/sを148m³/sに9割カット)



- この結果、保津橋地点(亀岡市保津川下り船乗場付近)の水位を約1.5m低下
- 嵐山(渡月橋)地点の水位を約0.5m低下
- させ、亀岡、嵐山、桂川下流域(京都市街地(西京区、山科区))に大きな洪水軽減効果を発揮
- 日吉ダムは、洪水とともに流入した大量の流木が捕捉。これが流れていた場合には、下流の橋梁に集積し、洪水氾濫が拡大(嵐山渡月橋の洪水水位もさらに上昇)していたことが確実
- 日吉ダムは、「洪水量の軽減」と「流木の捕捉」の二つの面で、下流の洪水軽減に大きな効果

